



2018年度 フェロシップ受賞者留学体験記

2018年度 JATS フェロシップ (心臓血管外科分野・呼吸器外科分野・食道分野)

2018年度 JATS フェロシップ (心臓血管外科分野)

University of Ottawa Heart Institute, Canada

藏澄 宏之

この度は第2回JATSフェロシップに選考いただき、誠にありがとうございました。このような貴重な機会を与えていただきましたことを、大北理事長、齋木国際委員会委員長をはじめとする胸部外科学会の先生方に心より御礼申し上げます。私が留学させていただいたのはカナダ

のオタワ市にあるUniversity of Ottawa Heart Institute (UOHI) です。この施設のMarc Ruel教授からMICSを学ぶため渡加しました。オタワはオンタリオ州の東部に位置するカナダの首都です。首都ですが大都市ではなく、自然豊かでのどかな治安のよい街でした。UOHIは1976年に設立されたカナダ初の循環器専門施設で、年間1,700例の開心術が行われています。手術室は6室あり、Hybrid ORではTAVIやMitraclipなどのカテーテル治療が連日行われています。

UOHI心臓外科のdivision headであるMarc Ruel教授が私を直接指導して下さい、手術、回診、カンファレンス等に参加しました。Ruel教授は親日家で、日本人の私をとて暖かく迎えて下さいました。Observerという立場なので、直接的な医療行為は許されませんが、手術は清潔野で見学させていただきました。

Ruel教授はMICS CABGやMICS AVRに関する発表を精力的に行っておられます。教授のMICS CABGは左小開胸のLITAとSVGを用いた多枝バイパスで症例数も多く、小さな創の中で淡々と順調にCABGが進んでゆく様は感動的でした。海外からの見学者も多く、多国籍の心臓外科医と交流することもできました。また、教授以外のsurgeonの手術も自由に入らせて頂きました。各術者が各自の方法で手術をしており、様々な術者の様々な手術を細部まで見学できたことは、貴

重な経験となりました。Visitorという立場での短い研修であったため、残念ながらUOHIのデータを使って学術論文を作成する許可は得られませんでした。この研修を通じて多くの心臓外科医と交流をもち、海外のtop surgeonの手術とhigh volume centerで行われている治療を目の当たりにすることができました。

帰国後、自施設でMICS AVRを執刀する機会を与えていただきました。Ruel教授の方法で行いました。自分の執刀動画を見直してみると、教授が簡単そうに行っていたMICSと私のものとは雲泥の差で、落胆する一方、もっともっと上手になりたいと強く思うようになりました。

今回の経験が自分の外科医人生に大きな変化をもたらすと確信しています。より一層精進し、日本胸部外科学会の発展に貢献できればと存じます。



藏澄 宏之
所属：山口大学 第一外科
卒業大学：山口大学
略歴：
2004年 山口大学医学部附属病院 臨床研修医
2006年 JA 厚生連 周東総合病院
2007年 済生会下関総合病院
2008年 山口大学 第一外科
2015年 済生会山口総合病院
2016年 JCHO 徳山中央病院
2018年 山口大学 第一外科 助教
趣味：映画鑑賞
好きな言葉：成せば成る

University of Chicago, USA

橋本 誠

今回、JATSフェロシップにてシカゴ大学に短期留学させて頂きました。

PCIの成績向上、TAVR等の出現で、昨今、心臓外科治療は高侵襲なものというイメージが強くなっているように感じます。その中で、いかに内科医にも患者さんにも納得して頂けるような、低侵襲で、洗練された治療を行えるか、その実践が自分の使命と考えています。そんな折、当院でロボット手術を始める兆しがあり、最高のロボット手術を勉強したく、TECABで高名なDr. Balkhyの在籍するシカゴ大学を研修先を選びました。

シカゴ大学には神戸出身の太田先生がattendingとして御在籍で、私の留学に

関して多くのサポートを頂きました。初日に、臨床、学術、プライベートそれぞれに明確な目標を持つ為に色々話し合い、照準がより鮮明になったことを思い出します。慣れない地での研修で不安もありましたが、充実した日々を送れたのは太田先生のおかげです。プライベートでもビール作りやピザパーティー、色々楽しく過ごさせて頂きました。心より感謝です。

臨床面ですが、シカゴ大学では毎日様々なロボット手術が行われており、多彩なロボット手術の真髄を自分に叩き込むことができたと思います。その中でもTECABは圧巻です。ロボットの性能は

TECABで最大限生かされると確信しました。また、これが自分の進むべき“道”だと直感しました。

学術面ですが、いくつか論文を執筆する機会を頂きました。Case, Surgical technique, Original article 等、多様な論文を執筆し、それにより自分の見識も深め、指導医との関わりも深めることができたと思います。また、採択されるか分

かりませんが、国際学会にも演題を提出し今後に期待です。

今回の留学で得た経験は今後の外科医人生で重要な核になると感じています。目標をもって望めば短期留学でも得られるものは膨大であり、このような機会を与えて下さった胸部外科学会に深く感謝致します。



橋本 誠
所属：札幌心臓血管クリニック 心臓血管外科
卒業大学：島根大学
略歴：
2007年 札幌医科大学 第2外科
2010年 北海道立北見病院 心臓血管外科
2011年 豊見城中央病院 心臓血管外科
2013年 榊原記念病院 心臓血管外科
2014年 札幌心臓血管クリニック 心臓血管外科
趣味：ロードバイク
好きな言葉：Sophistication

2018年度 JATS フェロシップ (呼吸器外科分野)

Humanitas Research Hospital, Milan, Italy

春木 朋広

この度、第2回JATSフェロシップを受賞し、イタリア・ミラノに短期留学することができました。留学に際し、日本胸部外科学会の大北理事長、齋木国際委員会委員長、奥村明之進先生をはじめ、

多くの先生方にご支援を賜りましたことを心より御礼申し上げます。

私の留学先は、ミラノ中心部から約1時間南にある Humanitas Research Hospitalで、メンターは呼吸器外科ロボ

ット手術の先駆者であるGiulia Veronesi先生でした。主に手術見学を行い、その中でもVeronesi先生のロボット手術を中心に学びました。自分たちの手技や手術戦略との類似点・相違点を見ることは非常に勉強になり、特にICGと蛍光カメラモードを駆使して行う Robotic segmentectomyは、本邦でまだ保険適応がなく、今後、始めていく際に非常に参考になる手技でした。日本でまだまだ特殊な手術という位置づけの呼吸器外科ロボット手術も、そこでは非常に慣れた様子で行われ、手術室スタッフの日常の中にロボット手術が溶け込んでいるのも印象的でした。イタリア人気質、とでも言いましょうか、スタッフ同士が明るく仲良く振る舞い、軽音楽が鳴り響く賑や

かな手術室は、少し羨ましい気がしました。滞在中のイタリアは毎日晴天で、週末は各地の名所を巡り名産を食し、大好きなサッカー・セリエAの“ミラノダービー”も観戦できました。全てがかけがえない貴重な体験で、素晴らしい時間を過ごすことができました。

日本でもこれからさらにロボット手術が展開されていくと思われませんが、今回の自分の経験を活かし、微力ながら今後も本邦の胸部外科の発展に尽力したいと思います。最後に、このような機会を与えて下さった日本胸部外科学会、スポンサー企業の方々に深謝いたします。また、快く送り出してくれた当科中村教授、不在の間の診療をカバーしてくれた医局員の皆にも心から感謝いたします。



春木 朋広
所属施設：鳥取大学医学部 胸部外科
卒業大学：鳥取大学
略歴：
2004年 鳥取大学医学部附属病院初期研修医
2006年 鳥取県立中央病院後期研修医
2008年 鳥取大学医学部附属病院 胸部外科
2011年 国立がん研究センター東病院 がん専門研修医
2013年 鳥取大学医学部 胸部外科
2015年 University of Texas Southwestern Medical Center 留学
2017年 鳥取大学医学部 胸部外科
趣味：サッカー、ゴルフ
好きな言葉：病気を診ずして病人を診よ

Memorial Sloan Kettering Cancer Center, USA

鮫島 譲司

2018年11月から2か月間、ニューヨークのMemorial Sloan Kettering Cancer Centerに短期留学させて頂きましたのでご報告致します。今回の留学の目的は日本ではまだ少ないda Vinci手術を学ぶことと、

米国の手術の現状を知ることでした。Memorial Sloan Kettering Cancer Centerはニューヨークのマンハッタンにあり、Thoracic Service前々部長のDr.Ginsberg、前部長のDr.Ruschは大変高名な先生方



鮫島 譲司
所属：神奈川県立がんセンター 呼吸器外科
卒業大学：横浜市立大学
略歴：
2006年 横浜市立大学外科治療学入局
2009年 神奈川県立循環器呼吸器病センター 呼吸器外科
2012年 関東労災病院 呼吸器外科
2013年 がん研有明病院 呼吸器外科
2015年 横浜市立大学附属病院 外科治療学
2016年 神奈川県立がんセンター 呼吸器外科
趣味：旅行、テニス

す。この施設を選んで良かったのはAttending Surgeonが12人いるため毎日複数の手術があり、自分の見たい手術を選べたことで、私はda Vinci手術を中心に見学しました。12人のうち3人のAttending Surgeonが主にda Vinci手術を行っており、それ以外の先生方は3 ports VATS(まれに後側方開胸・Uniportal VATS)を行っていました。有名病院のため世界中から見学者が来ており、我々はClinical Observerという立場で手術、カンファレンス、外来、病棟見学を行いました。私と同時期に来ていた中国の胸部外科の先生は同年代であったため非常に仲良くなり、毎日話す中で中国の呼吸器外科の現状についても詳しく知ることができました。

今回の海外経験は2か月という短いも

のでしたが、非常に貴重な経験でした。私は帰国子女ではなく留学経験もないので英語力は非常に不安な要素でしたが、海外で友人もできたため、英語を話す機会に恵まれたことも良かったと思います。インターネットが普及した世の中ですが、海外に実際に足を運んで現状を知ることや海外の人と直接話すことで得られる知識や経験は全く違うものだと思いますので、今回思い切って飛び込んでみて良い経験ができました。今後所属する施設でda Vinci手術の導入を進めて行く予定です。最後になりましたが、不在の間を支えていただいた同僚の先生方、このような機会を与えていただいた日本胸部外科学会国際委員会の先生方、スポンサー企業の方々に心よりお礼申し上げます。

2018年度 JATS フェローシップ (食道分野)

Karolinska Institutet, Stockholm, Sweden

中島雄一郎

この度はJATSフェローシップを利用して、スウェーデンのカロリンスカ研究所に2か月弱の短期留学をさせて頂きました。当院心臓血管外科の塩瀬明教授より本プログラムをご紹介いただき、留学先の選定と受け入れの手配につきましては浜松医科大学の竹内裕也教授にご尽力いただき、両先生方には心より感謝しております。

今回の留学では、欧米に多く、本邦でも今後増加が懸念されている食道腺癌に対するIvor Lewis手術の手技習得を目的として渡欧しました。Magnus Nilsson教授が率いる上部消化管外科のユニットでの食道癌や胃癌に対する手術や回診、

カンファレンス等に参加させて頂きました。ほぼ全ての手術は胸腔鏡または腹腔鏡下に施行されており、Ivor Lewisを含む20例あまりの手術に参加させて頂きました。overlap法による胸腔鏡下食道胃管吻合の手技や、縦郭内吻合で縫合不全を発症した際の対応法など、今後日本での臨床への導入にあたり、貴重なアイデアを学ぶことができました。一方、日本と異なる治療方針(郭清範囲や周術期治療など)に触れて、私が今まで日本で疑問を持たずに行ってきた診療内容の意義を問い直す臨床研究のヒントをいただきました。私が予想していた以

上に彼らは日本から発表される臨床研究や論文に高い関心を持っており、英文論文や国際学会での発表を通して英語で発信することの重要性を再認識することができました。

最後に、カロリンスカではがん研有明病院より速水克先生がスタッフとしてご活躍されており、留学中は公私にわたり

大変お世話になり、短期間の留学で最大限の学びを得ることができました。このような素晴らしい機会を頂きましたことを、本学会をはじめご支援いただいた全ての先生方に深謝致します。微力ながら、これからも食道外科の発展に貢献できるように精進したいと思います。ありがとうございました。



中島雄一郎
所属施設：九州大学大学院 消化器・総合外科 (第2外科)
卒業大学：九州大学
簡単な経歴
2004年 佐賀県立病院好生館 初期臨床研修医
2006年 九州大学大学院 消化器・総合外科 (第2外科)
2010年 松山赤十字病院 外科
2012年 広島赤十字・原爆病院 外科
2014年 九州大学大学院 消化器・総合外科 (第2外科)
趣味：読書
好きな言葉：働き方改革